



題字 和泉 哲章

N O, 2 令和4年1月31日（月）
発行 新潟県NIE推進協議会事務局

NIEへの期待

新潟県教育委員会 教育長 稲荷善之

グローバル化や情報化が進む社会において、次代を担う子どもたちの生きる力を育むためにつくられた新学習指導要領は、昨年度から小学校、本年度から中学校において全面実施され、来年度からは高等学校において年次進行で実施されます。新学習指導要領では新しい時代を見据え、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養を目指しています。社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている中、新しい時代の課題を取り扱い、目指す資質・能力を育成するために、あらゆる分野の最新の情報や現代の社会問題を掲載している新聞を教材として活用することは有効な手段の一つです。



新聞には、教科書では捉えきれない最新の社会の動向や地域のさまざまな情報が即時に掲載されています。また、専門家や記者による多面的な分析や解説、意見などもあり、これらを学校の授業において教材として用いることは、子どもが社会への関心を高め、見方や考え方を広げ深めることにつながります。これまでのNIEの実践からは、読解力や情報処理能力、多面的・多角的に考察し判断する力、情報を適切に選び取りわかりやすく伝える力などが身につくと報告されています。

また、新学習指導要領では、情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な力として情報活用能力の育成を図ることも示されました。インターネットなどの大量の情報に囲まれ生きていく現代においては、課題や目的に応じて情報手段を適切に活用する力、必要な情報を主体的に収集・判断・処理する力、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達する力などの育成が必要です。複数の新聞を比較したり記事を題材にして検討したりするNIEによる学習は、これらの力の育成にも効果があると考えます。

このようなさまざまな効果が期待できるNIEの取り組みは、本県においては1993年に設立した本協議会により推進され、総合的な学習の時間や社会科、国語科などで多くの実践が積み重ねられてきました。今後もより一層魅力的な実践がなされ、広く発信されることを期待しています。

市町村教育委員会訪問

令和3（2021）年、伊藤充会長と津野庄一郎事務局長及び新聞・通信社の支局長・総局長が、新潟県NIEに対する理解と協力を得るために各教育委員会を訪れました。例年の新潟県及び新潟市に加え、5つの教育委員会をNIE研究会開催時期に合わせて訪問し、主な事業概要の説明と学校図書館への新聞配備等をお願いしました。

〈訪問した教育委員会は、以下の通りです。〉

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ・新潟県教育委員会（稲荷善之教育長） | ・五泉市教育委員会（井上幸直教育長） |
| ・新潟市教育委員会（井崎規之教育長） | ・新発田市教育委員会（工藤ひとし教育長） |
| ・上越市教育委員会（早川義裕教育長） | ・村上市教育委員会（遠藤友春教育長） |
| ・佐渡市教育委員会（新発田靖教育長） | |

写真で見る NIE実践研究委嘱校の取り組み（令和3年）

詳細は、新潟県NIE推進協議会ホームページ「お知らせ」をご覧ください！

＜2年目校（NIE研究発表会）＞

- 新発田市立御免町小学校（藤井聰校長・NIE担当 星野敬子教諭）



- 五泉市立愛宕小学校（高津清一校長・NIE担当 中山智美教諭）



- 新潟市立内野小学校（中村芳郎校長・NIE担当 落合悠太教諭）



- 上越市立三和中学校（石野秋広校長・NIE担当 熊木恵美子教諭）



○ 佐渡市立新穂中学校（小沼泰高校長・NIE 担当 小黒淳一教諭）



○ 新潟県立村上中等教育学校（吉田保夫校長・NIE 担当 新沢耕輔教諭）



<1年目校（NIEまとめの授業研修）>

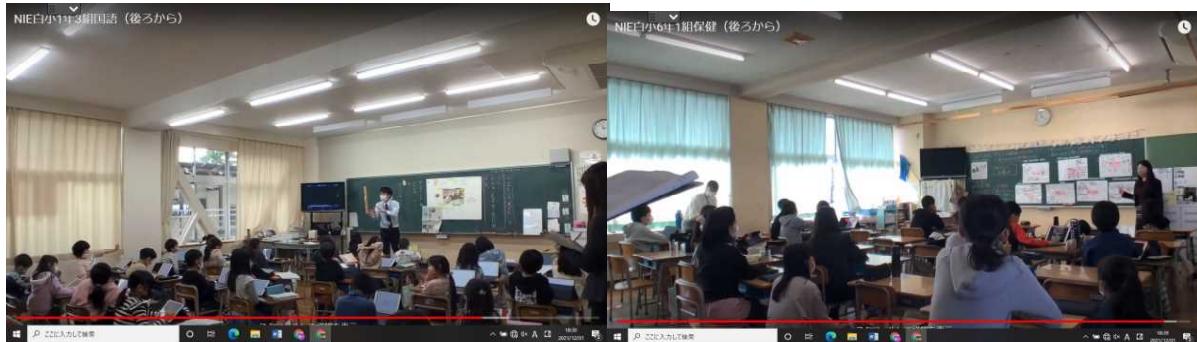
○ 上越市立大潟町小学校（石田永校長・NIE 担当 南雲民人教諭）



○ 燕市立大関小学校（菅家正人校長・NIE 担当 永野真衣教諭）



○ 新潟市立白根小学校（本多一貴校長・NIE 担当 高橋健一教諭）



○ 小千谷市立小千谷中学校（若林靖人校長・NIE 担当 井上北斗教諭）



○ 新潟市立岩室中学校（本多豊校長・NIE 担当 和泉拓教諭）



○ 新潟第一高等学校（藤澤健一校長・NIE 担当 若林美恵子教諭）



<編集後記>

11月からスタートしたNIE実践研究委嘱校の研究発表会（2年目）及びまとめの授業研修（1年目）のすべてを参観しました。そこには、教科書の中に閉じこもりがちな授業から脱却し、子どもの学習意欲や学ぶ力を育てようと工夫する教職員と、生き生きと学ぶ子どもの姿がありました。新聞（含む電子版）の活用が、将来の主権者としての資質・能力を育む一助になることを切に願います。（津野庄一郎）